

[P4]

政府情報アクセス・
デジタルアーカイブ・
専門職教育の接点を探る：
北米2大学の大学院(iSchool)科目を
通じての考察

古賀 崇(天理大学)



今回のポスターの背景

- ◆ 古賀個人によるJSPS科研費「政府情報リテラシーの日米比較と教育内容の体系化に関する研究」(JP16K00454 基盤(C))
- ◆ 一連の成果は古賀のウェブサイトにて発信
 - ◆ 「古賀崇 researchmap」で検索して下さい

科研費
KAKENHI

政府情報

- ◆ 日本における諸問題
 - ◆ 公文書のずさんな管理・改ざん
 - ◆ 統計・調査データ改ざん
- ◆ デジタル技術によって歯止めはかけられるか？
- ◆ 受け手・読み手（非統治者）としてのリテラシーも問われる

デジタルアーカイブ

- ◆ 英語圏でも定義のバラつきあり

- ◆ *Encyclopedia of Archival Science* (2015)での
Theimer “Digital Archives”の項目にまとめら
れる

- ◆ しかし、デジタルアーキビスト (Digital Archivist) は英語圏では明らかに、「ボーン・デジタルの記録を扱う専門職」と位置づけられる

専門職教育

- ◆これはやはり北米に一日の長あり
 - ◆米国図書館協会(ALA): 図書館員養成の大学院カリキュラムを認証
 - ◆米国アーキビスト協会(SAA): Digital Archives Specialist資格の認定を行う
 - ◆Certified Archivist資格は、SAAとは別にAcademy of Certified Archivists(ACA)が認定
 - ◆iSchool: 図書館情報学を基盤としつつ、より広い情報学の研究・教育と、人材育成・再教育を志向
 - ◆現在90校(準会員校10校除く)中、41校が北米の大学

北米2大学の大学院 (iSchool) 科目

◇2017年の調査先

◇ワシントン大学(UW): 米国シアトル

◇ブリティッシュ・コロンビア大学(UBC): カナダ・バンクーバー

何よりのポイントは...

専門職教育の基盤となるツールの
重要性

ツールの例(1): HathiTrust

- ◆ 主に米国の大学図書館所蔵資料に基づくデジタルアーカイブ
- ◆ 米国連邦政府刊行物が多く含まれる
 - ◆ 連邦政府刊行物寄託図書館制度(FDLP)も背景に
- ◆ ワシントン大学での科目では、Tumblrを用い、履修者らにとって興味深い政府刊行物のデータを、HathiTrustなどからリンクしシェア

ツールの例(2): BitCurator

- ◆ Christopher (Cal) Lee教授(ノースカロライナ大学)らの開発による、デジタル媒体の解析ツール(オープンソース)
- ◆ デジタル・フォレンジック(電子鑑識)の一端を担う
 - ◆ しかし犯罪捜査用というより、「ボーン・デジタル記録」の解析・復元・証拠保全のための意図が大きい
- ◆ 図書館・文書館・博物館関係者らによるユーザーコミュニティ“BitCurator Consortium”も稼働中
- ◆ こうした関係者にとってデジタル・フォレンジックを身近に捉え、実行できる意義が大きい → SAA、UBCなどによる教育・研修にも波及

ポスターブース[P4]で
お待ちしております！